

ESDをもっと身近に ③

【3ない】を自らの判断基準とする子どもの育成

【もったいない】

「もったいない」とは、限りあることを知り、大切にすることです。

私たち大人が、子どもに伝えたい「もったいない」対象として「命・時間・資源」があります。

この世で最も「もったいない」のは、自他の「命」です。また、限りある人生ゆえに、「時間」は貴重です。「資源」が「もったいない」のは、何も資源が乏しい日本に限ったことではありません。

【みっともない】

「みっともない」とは、他者意識をもち、恥じることです。

日本には、古来、「恥の文化」があります。しかし昨今、他者意識を欠く行為が、多くみられるのもまた事実です。

子どもたちに「美意識」と「公德心」を育むことが、求められています。

【申し訳ない】

「申し訳ない」とは、謝罪と感謝の念をもつことです。

「正直」、「素直」、「誠実」といった道徳的価値が、人と関わる中で「申し訳ない」という感情を生みます。

東日本大震災の折、我が国に寄せられた諸外国からの賛辞。その対象となる行為を支えた【もったいない、みっともない、申し訳ない】の3つの精神を判断基準とし、子どもたちが日常生活の中で自らの行動を律していくことで、ESDはもっと身近なものになると、私は考えています。



短く叱り、たっぷりほめる

エッセイスト、クリエイティブディレクター 松浦弥太郎

叱るときは、できるだけ短くシンプルに。相手が若い人であっても、メンツをつぶさないように注意して叱りましょう。そのあとは、いいところを見つけて、たっぷりほめましょう。相手が自信のない若い人だったら、たくさんほめて、「絶対に大丈夫だ」と励ましてあげましょう。

出典：「はたらくきほん100 毎日がスタートアップ」(マガジンハウス)

※ あの人になら叱られてもいい。むしろ叱られて自らを伸ばしたい。そう思わせるリーダーがいます。